



亀中だより

No.39 令和4年1月12日 文責:岡田



新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたことと存じます。寒さが厳しい冬休み、新年の幕開けではありましたが、大きな事件等に巻き込まれることもなく、無事に3学期を迎えることが出来ましたこと、ひとえに保護者・地域の皆様をはじめ、関係諸機関の方々の見守りのおかげと感謝申し上げます。

さて、ひと月先でさえ、社会がどうなっているか予測困難な今、今年一年を見通すことなど到底できないものですが、「一年の計は元旦にあり」ともいいます。無計画のままに過ごす一年は何もしないうちに過ぎてしまいかねません。まだ今年の過ごし方が定まっていなかったら、3学期が始まった今のうちに考えてみてはいかがでしょうか。

「凡事徹底」…何でもないような当たり前のことでも徹底的に行うことという意味ですが、これがとんでもないところへ行くための唯一の方法だとイチロー選手がお話しされています。あるインタビューで「これだけはやったなといえる練習ってありますか」という質問に対して、「僕は高校生活の3年間、1日たったの10分ですが、寝る前に必ず素振りをしました。その10分の素振りを1年365日、3年間続けました。これが誰よりもやった練習です。」と答えられました。ご存じの方も多いでしょう。さらにイチロー選手は続けてこれができた「秘訣」についても語ってくれています。その一つ目は「高すぎない目標設定」です。がんばればなんとかなる“一日たったの10分”というところでしょうか。もう一つは「子どものようにまたやりたいなという気持ち」の継続だそうです。いくらかの成功体験や素振りでつかんだヒントを翌日の練習で試すことの連続がこれを可能にしているんじゃないでしょうか。いずれにしても大スターの意味深い言葉です。

中学生のみなさんも進路への挑戦や部活動、学習など様々な分野で、自分と向き合うことが必要となっています。目標へ近づくために「高すぎない目標」と「またやりたい気持ち」の継続を年始にあたり、考えてみてください。私はとりあえず、年末から始めたファスティングをもう少し継続しようかなと思います。(^^♪



奥田健太君 第27回全国ジュニアラグビーフットボール大会出場!

日本ラグビーフットボール協会主催の上記大会(東京都で開催)に三重県代表として2年1組の奥田健太君が会場されました。熱狂したワールドカップは早いもので2年前のことであり、コロナ前のことでしたね。あの熱狂的な光景が思い出されますが、試合は岩手県代表に40-12、茨城県代表に24-33で1勝1敗とのことでした。ごろうさまでした!「One for all, all for one!」

ジュニアオリンピック(バレーボール・ハンドボールより…)

ハンドボール部から3年生伊藤汰智君、柴田啓吾君、坂璃音さん、女子バレーボール部から小林菜広さん、大西希来さん、早川芽依さんが出場したジュニアオリンピックカップも年末に開催されました。三重県代表として臨んだ大会、中には直前の練習でけがをしたにもかかわらず、臆せず、試合に臨んだ選手もいらっしゃいました。結果は3チームいずれも予選グループの戦いを1勝1敗としましたが、勝ち点や得失点差によって惜しくも決勝トーナメントにすすめませんでした。残念でしたが、進路選択が目前に迫る時期に、学習との両立をしながら、県代表として立派に試合に臨んでくれました。ご苦労様でした。